カツオ、キルト、こすもす…

黒潮町の秋を満喫！

行楽の秋、芸術の秋、食欲の秋、スポーツの秋・・・。10月から11月にかけて、町内各地でさまざまな秋のイベントが開催されました。旬の味や季節の風景を楽しんだ様子をご紹介します。

戻りガツオ

土佐さがのもどりガツオ祭に過去最高の5000人！

10月22日、カツオふれあいセンター黒潮一番館で「第8回土佐さがのもどりガツオ祭」が開催されました。

今年から漁協女性部を中心に組織した実行委員会が主催となり、商工会やなぶら、黒潮若手の会らの協力のもと、出店を増やしたり、カツオ定食の食券を販売するなど、集客アップを目指して準備しました。

当日は、時おり激しい雨が降る悪天候の中、一部中止となったイベントもありましたが、近隣市町村や愛媛県などから約5000人のお客さんが訪れ、午後にはカツオが売り切れるほど。脂が乗った旬の戻りガツオと、地域産品を味わい、最後のもち投げまで大いに盛り上がりました。

黒潮町の「えぇトコ」知っとこ！ カツオのワラ焼きたたき体験

10月29日、黒潮一番館で、カツオのワラ焼きたたきづくりモニター体験が行われました。

当日は、地域や各団体から計24人が参加。黒潮カツオ体験隊の受け入れのもと、町内産業であるカツオの一本釣り漁について授業を受け、丸ごと一本のカツオを使ったたたきづくりを体験しました。

参加者からは「タタキづくりを体験できることを知らなかった。とても楽しくておいしかったです。」「カブラやサオリの実物を見たかった。」との声も。地元の魅力への気付きや興味がより深まった一日となったようです。

海外からの視察ツアー カツオのたたきづくりを見学

11月1日の黒潮一番館。なにやらいつもと様子が違い、黒潮カツオ体験隊のメンバーたちは、片言の英語にジェスチャーでお客さんに作り方を説明しています。

この日見学に来ていたのは、アメリカ、イギリス、ドイツ、オーストラリアの旅行会社やメディアの関係者。国土交通省四国運輸局の事業で、海外に四国や瀬戸内海のエコツーリズム・体験型観光を紹介する目的で招待された方々です。

黒潮町では、カツオのワラ焼きたたきづくりを見学し、できたてのたたきで昼食。「とても新鮮でおいしい」と好評でした。

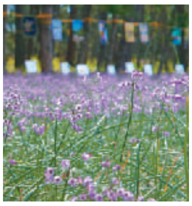
秋の砂浜美術館

ひらひら&ぶらぶら　らっきょうの花とキルト展

11月3日から4日間、黒潮町入野で「第17回潮風のキルト展」が開催されました。雨のため屋内展示が多くなりましたが、4日と6日の午前中は天気が回復し、松原に、大小66作品の色とりどりのキルトが展示されました。

今年は入野駅からのウォーキングも実施。参加者は、キルト展やらっきょうの花を見ながら散策し、「砂浜美術館」の秋を楽しんでいました。

東日本大震災の被災地復興を願う作品もありました。



発祥の地・黒潮町で「漂着物学会」

2001年に黒潮町で設立した「漂着物学会」（事務局・砂浜美術館）の第11回大会が、10月23日、総合センターで行われ、全国から約80人が参加しました。

中西弘樹漂着物学会会長の基調講演「漂着物と海流散布植物の分布」や、ポスターセッション、一升漂着物展などがあり、全国からの研究発表では、佐賀中学校1年生の多田真穂さんも「海からの贈り物」と題して発表しました。

翌日は、四万十市・双海でビーチコーミングを行い、浜辺に流れ着いた貝殻や種などを収集しました（写真）。

こすもす

雨でもきれい！「こすもすの花見in橘川」

人口18人―。町内でもっとも人口が少ない大方橘川（たちばながわ）で、11月3日、こすもすの花見が行われました。

当日はあいにくの雨にもかかわらず、家族や親戚、友達など約300人が訪れ、田んぼに咲いたこすもすを見ながら、地元食材を使った山菜おこわやちらし寿司、中山間生産組合で作ったお茶などを味わいました。最後は橘川自慢の香りもち米で作ったおもちのもち投げ。年に一度の大にぎわいの一日となりました。

地域まるごと

秋を見つけよう！「地域の秋を楽しむ会」

11月6日、9回目の「地域の秋を楽しむ会」が、かきせ川地域づくり協議会の主催で行われました。

蛎瀬川（かきせ）沿いを歩く健康ウォークには、約30人が参加。途中、御坊畑（おんぼうばた）でイモ汁やお茶をいただいて休憩しながら、馬荷（うまに）まで約7キロのコースを楽しみました。メイン会場の旧馬荷小学校では、馬荷温泉の足湯サービスや、七立栗（ななたてぐり）、山芋汁など、秋の楽しみがいっぱい。フラダンスや一条太鼓の披露もありました。「特別なことをするのではなく、いつもの風景から自分で秋を見つけて楽しんでもらえたら」と同協議会・川村渡会長。

子どもからお年寄りまで、みんなが地域の秋を満喫していました。